

植民地化以前の西アフリカにおける布貨幣

小林 和夫（早稲田大学）

植民地化以前の西アフリカ—とくにサバンナ地域—では、布は、衣類として消費されたほかに、鉄や寶貝などとともに貨幣の1つとして用いられていた。貨幣として使用された布は、基本的に西アフリカ内部で生産されたものである。西アフリカの織機では細巾の布（cloth strip）を織ることができ、商人は、必要に応じて、複数の細巾の布を組み合わせて取引の支払いに用いた。小口取引であれば、ピースを裁断して価値を調整することもあった。

本報告では、植民地化以前の西アフリカにおける布貨幣を紹介したうえで、ヨーロッパ人との接触以後、それがどのように変容したのか（あるいは、しなかったのか）、という点に注目したい。具体的には、19世紀後半以降に植民地行政が新しい貨幣を導入しようとした際、また、20世紀後半に憲政的独立を遂げた後にも、現地の住民側の選択によって、布が貨幣として用いられていた事例を取り上げる。最後に、その含意を世界（経済）史の文脈のなかで考察したい。